

各報道機関 様

KJ00721455

2026年9月30日

発信課	社会教育部文化振興課彫刻美術館
担当者	瀬戸
連絡先	電 話 46-6277
	F A X 46-6288
	E-mail sculpture_mus@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事【○】 募集【 】 契約・入札【 】 会議・説明会【 】 その他【 】
日 程	令和8年10月14日 10時30分 ～ 令和9年1月11日 18時30分
発表項目 (行事名)	旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー展覧会・第44回中原悌二郎賞受賞記念「生まれようとするとき、光」藤原千也展の開催について
概 要 (趣旨・日時・場所・内容等を記入すること。)	札幌市出身の彫刻家・藤原千也氏が令和7年度第44回中原悌二郎賞を受賞したことを記念して、旭川市で初めての個展を開催する。藤原氏は、樹木の内部をチェーンソーなどで掘り進め、自らその内側へと身体を潜り込ませ、空洞となった内部に光が差し込むように形を作りあげていく、独自の手法を用いる作家である。本展では、新作《生まれようとしたときの光》を展示するとともに、木に紙を置き、鉛筆などで模様を写しとるフロタージュ技法を用いた平面作品や準備素描を展示し、藤原氏が樹あるいは生命とひたむきに対峙してきた様子を紹介する。 会期 令和8年10月14日（水）～令和9年1月11日（月・祝） 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）、 年末年始（12月30日～1月4日） 時間 午前10時30分～午後6時30分（入館は午後6時15分まで） 会場 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー 関連イベント ・ギャラリートーク：11月7日（土）14：00～15：00 彫刻家・藤原千也氏による作品解説、制作エピソードなどをお話いただきます（要申込、先着順）。 ・屋外作品展示：10月25日（日）～11月6日（金）まで 第2会場として、JR旭川駅南口広場（通称・駅裏）にて屋外展示を行います。
添付資料	有 ☒ 無 ☐
報道（取材）に当たってのお願い	
備 考	

生まれようとするとき、光

藤原千也展 2026.10.14(水)～2027.1.11(月)

中原悌二郎記念 旭川市彫刻美術館 STATION GALLERY



中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館「生まれようとするとき、光」藤原千也展

「命を見るには、潜るしかなかった」

そう語るのは、北海道札幌市出身の彫刻家・藤原千也氏。第44回中原悌二郎賞受賞を記念して、旭川市で初めての個展を開催します。藤原は、樹木の内部をチェーンソーなどで掘り進め、自らその内側へと身体を潜り込ませ、空洞となった内部に光が差し込むように形を作りあげていく、独自の手法を用いる作家です。これまでに、中原悌二郎賞のほか、岡本太郎特別賞、本郷新札幌彫刻賞、北海道文化奨励賞などを受賞し、高い評価を受けてきました。

木の表面に形を刻むのではなく、その内部へと入り込む様子は、生命の根源へと向き合うかのようです。

掘るという行為を通して現れてくるのは、単なる造形ではなく、樹木が生きてきた事実そのものなのかもしれません。

藤原作品は、静かに問いかけます。

生命とは何か。魂とは、どこに宿るのか。そして私たちは、何をもって「生きている」と感じるのか。

本展では、藤原が一貫して追究してきた「生命」をめぐる問いを、彫刻、空間、そして光によって展開します。

さらに会場には、北海道を代表する彫刻家・砂澤ビッキの《カムイミンダラ》《樹蛙》《樹蝶》も展示されます。

木という素材と向き合い続けた二人の作家。異なる時代、異なる方法で生命と自然を見つめた作品が、ひとつの場所で出会います。

藤原の作品と砂澤ビッキの作品が、時を越えてどのように響き合うのか。

それぞれが見つめた「生命」が、ここに浮かび上がります。



「太陽のふね / given light」2024年 木（トドマツ等）h380-d1,830-w480 (cm) 写真撮影：井上治二

藤原千也の彫刻作品「太陽のふね」（二〇二四年）は、大小の樹木の断片を積み重ね、横たえた巨木のかたちをしている。現在、札幌芸術の森美術館・中庭に展示されていて、この中原悌二郎賞受賞作（第四十四回）は、あたかも永い年月をかけて空洞化した根元を露呈しているかのようだ。本展出品作「生まれようとしたときの光」は、ニレと白樺の巨木の一部を組み合わせた大作（h.4m）で、展示室中央に展示されている。一方、砂澤ビッキの「KAMU MINDARA」が対照的に右壁上方に各パーツが交差して神々の庭を形成する。それはまた旭川からみた大雪の空間イメージである。他には藤原作品は、奥に流水による「生まれようとした時の光」（二〇二五年）、ビッキの「樹蛙」「樹蝶」が左手に並ぶ。これらは石狩川から流れ落ちる石狩川を表している。と、すれば、「生まれようとするとき、光」とは、岡本太郎は、縄文土器の装飾に大地の奥にひそむ「根源的な魔的な神秘の力」を見出している。それは、藤原の大作「太陽のふね」の空洞化した根元に表現されているものでもあろう。（美術・芸術史キュレーター）



「生まれようとした時の光」2023年 木（欅木）h18-d22-w159 (cm) 写真撮影：真崎伸雄

木は、いつまでも生きようとしている。
傷つけば、その傷を避けるように繊維を向け、
腐れば、その腐りを包み込むようにして、
それでもなお、生きようとする。
木の中を掘っていると、その必死さが手に伝わってきます。
木も、人も、身体を持って生まれ、傷つき、老い、死んでいく。
その恐れられない時間の中に、生がある。
終わらない競争が、人の命を数字に変えていく。
生きてきた時間さえ生成したように錯覚させるAIに、生命を奪められている気がする。
砂澤ビッキが遺した「風雪」という名の鑑。
僕にはこの時代そのものが鑑のように思える。
だからこそ、僕はその内へ、木の中へ入り、いのちを見たい。
木に残された、生きようとしてきた力を掘り出しながら、
僕はもう一度、いのちとは、魂とは何かを確かめようとしています。
誰もが生まれようとしたとき見たかった、始まりの光。
その光に救われるのは、僕だけではないはずだ。

2026年8月 藤原 千也

藤原千也 略歴

1978年 札幌市南区生まれ。

2020年「第23回岡本太郎現代芸術特別賞 受賞」2022年「道庁芸術文化奨励賞 受賞」

2023年「本郷新記念札幌彫刻賞 受賞」2024年「札幌文化奨励賞 受賞」

2025年「第44回中原悌二郎賞 受賞」、「北海道文化奨励賞 受賞」

その他、展覧会・受賞歴 多数

第44回中原悌二郎賞受賞記念 「生まれようとするとき、光」藤原千也展

会 期	令和8年10月14日（水）～令和9年1月11日（月）
時 間	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）及び年末年始（12月30日～1月4日）は休館 午前10時30分～午後6時30分（入館は午後6時15分まで）
会 場	中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー
観 覧 料	無料
展示内容	個人蔵彫刻作品3点 平面作品4点 映像作品1点（予定）
主 催	中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

旭川彫刻フェスタ2026 ワークショップ

「木場で作ろう！」
木の断片を使って様々な作品を作ります。

屋外作品設置

屋外に設置された作品を、太陽の光で見ることができます。
期間：令和8年10月25日（日）～11月7日（土）

対象：どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

日時：令和8年10月25日（日）10:00～12:00

定員：15名（先着順）

場所：中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

ステーションギャラリー内

講師：藤原千也（彫刻家）

申込：☎0166-46-6277 or 2次元コード

主催：旭川彫刻フェスタ実行委員会

「ギャラリートーク」

日時：令和8年11月7日（土）14:00～15:00

対象：どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

定員：20名（先着順）

場所：中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

ステーションギャラリー内

講師：藤原千也（彫刻家）

申込：2次元コード10月20日（火）より

中原悌二郎記念
旭川市彫刻美術館
STATION GALLERY

〒070-0030
北海道旭川市
宮下通6丁目3-1
JR旭川駅東口



至 緑橋通

至 平和通貨物公園